



【2013年9月号】

▼FMやまびこ	羽石 有佳里	2
△FMやまびこ番外編その1	小林 邦子	6
▼FMやまびこ番外編その2	木村 重之	10
△FMやまびこ番外編その3	吉川 悠太郎	12
▼自閉症児の親も一日にしてならず	momoe	16
△本棚から	藤ノ木 法子	19

◆コラム (前川 舞)	・・・4	◇疑問符だらけの現場用語集	・・・5
◇よこはま三步 (木立 享佑)	・・・11	◆後援会・編集後記	・・・20



養護学校実習～Aさんから教わった自閉症支援の基礎～

東やまた工房 羽石 有佳里

通所の生活支援事業所である「東やまた工房」では7月1日～5日の5日間、養護学校分教室3年生のAさんの実習を行いました。そこで今回はAさんの実習受け入れについてご紹介します。

◆Aさんの紹介

ー「先日は面談ありがとうございました！」ー

これは、私がAさんと事前面談をした後に学校訪問した際にAさんから言われた言葉です。私は普段、東やまた工房で重度の方の支援をしているので、この時はあまりの会話の流暢さに驚かされました。このようにAさんは主に言葉でコミュニケーションをとっています。また、Aさんは家ではパソコンを使用して、好きなアニメをみたり、音楽を聴いたりして過ごしています。電車やバスが好きで、1人で外出や外食をすることもあります。

このようなAさんの生活の様子を聞いていると、Aさんは本当に自閉症の方なのかと初めは疑問に思うほどでした。

しかし、学校での様子を聞くと、Aさんは不安定になると物を投げたり倒したりする行為があるそうです。どうやら急に予定が変更になった時や、普段と違う活動の流れになった時に不安が強くなるようです。また、不安を感じるとひもを振って落ち着かせようとする行動があります。こうした行動は自閉症の人の不安定時の行動として見られるものですが、このようなAさんの行動が生活全体では、Aさんの言葉の流暢さから周囲の人には見えにくくなっているようです。

◆不安の強いAさんが安心して過ごすためには？

まずはAさんが安心して通所するためにはどうしたらいいのか、Aさんが不安に感じないようにどうしたらいいのかを考えました。

①目で見てわかる

初めて過ごす環境の中で、人に指示されなくても自分でわかる手がかりがあることは、私たちにとっても安心材料です。そこで自閉症の特性に配慮して、視覚的に見てわかるように物や場所に名前シールを貼って示しました。

例えば、作業席に「Aさん 作業席」というシールを貼り、Aさんがわかっていると思われるようなことも、あえて見てわかるように配慮しました。

②1日の見通しが持てる

新しい環境の中で、「今は何をするのか」「いつまでするのか」「終わったらどうなるのか」がわからないことはAさんにとってとても不安なことです。そこで1日の見通しを持って過ごせるように1日の日課スケジュールを用意しました。学校での集団生活とは異なり、周りの人に指示をされなくても、自分のスケジュールを見れば「今何をするのか」がわかることも、Aさんが安心して自信を持って過ごせる大切な要素の1つになります。



スケジュール

◆準備の最終確認

Aさんの実習を始める前に、作業場内の職員でAさんの1日の流れを確認するシミュレーションを行いました。そこでは実際にAさんに対する接し方や説明の仕方の確認や、Aさんの位置からはどう見えるのかなどを実際に体験する中で確認しました。するとAさんの位置からは見えにくい物の配置であることや、活動の際の動きにくさなどに気がつきました。そしてここでわかったことを修正し、実習本番を迎えました。

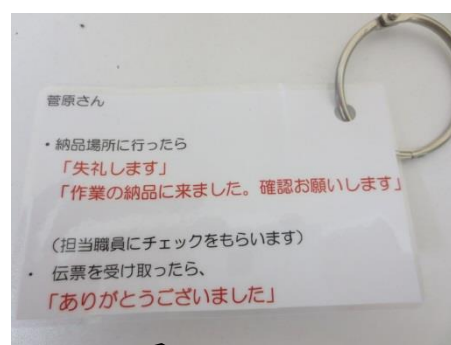


Aさん役

作業を教える職員

◆実際のAさんの様子

今回、Aさんには活動の1つとして受注作業の納品を行ってもらいました。納品時には職員に報告をして確認してもらおうのですが、会話ができるAさんなら問題なくできるだろうと思っていました。ところが、普段ならできている何気ないやり取りの言葉がその場では出てこなく、とても緊張している様子でした。そこで、報告する内容を文章で示したコミュニケーションツールをつくってみると、報告する際にカードを見て落ち着いて報告することができました。人と話すことが好きなAさんですが、業務の中でその場に適した言葉を選ぶことや伝えるタイミングがわかりにくいことがわかりました。場所が変わってもAさんが適切に報告をするためには、視覚的に見てわかる手順書やコミュニケーションツールの使用が有効だとわかりました。



コミュニケーションツール

◆実習を振り返って

初めは自閉症なのか？と思われたAさんでしたが、Aさんのことを知っていく中でAさんが不安になる部分や配慮が必要な部分があることがわかりました。しかしAさんの生活の自立度が高いため不得意なこととのアンバランスさがあり、それによって自閉症のAさんの特性が見えにくくなっていると感じました。Aさんは少し会話ができるため、周りからの評価が高くなってしまいがちですが、Aさんが不安に感じる部分は見通しの持ちづらい状況や急な予定の変更などで、自閉症の方に共通する行動や様子が見られました。今回の実習ではそうしたAさんの行動をしっかりと理解した上で、過ごす環境や配慮する部分を整理することの大切さを感じました。その結果、初めて単独で行う実習でしたがAさんは安心して過ごすことができ、また自信をもって活動をしている様子が見られました。

今回の実習を通して、私が普段関わっている重度の自閉症の方と軽度のAさんに対する支援には共通する部分がたくさんあるとわかりました。これは入職3年目の私にとって新たな発見で、現在東やまた工房で行っている支援が障害の程度に関わらず様々な自閉症の方に対して応用していけるとわかり、自分自身の経験の幅も広がり勉強になった実習となりました。

～コラム～

こんにちは。今年の4月より東山田地域ケアプラザの通所介護部門で働いております、前川舞と申します。

私は富山県出身で4年前、大学進学と同時に横浜に引っ越してきました。ひとり暮らしを始めてから自分で料理をする機会が増えたのですが、中々上達することが出来ずにいました。そこで社会人になったのをきっかけに、今年から料理教室に通い始めました。

料理教室では、食材の成分などの特徴、保存方法、切り方や味付け・焼き方など基本的なことから学んでいます。どの内容も初めて知ることが多く、驚きの連続でした。また、それらを知った上で、「ちょっとした手間をかけるだけで味が一段と美味しくなる」という点に改めて料理っておもしろいな、と感じるようになりました。

母の手料理の味に到達するには、まだまだ時間がかかりそうです。しかし、富山に帰省した際には、これまで学んだ料理をぜひ両親に食べてもらいたいと考えています。

東山田地域ケアプラザ 前川 舞



疑問符だらけの現場用語集 (51) 自閉症に特化した〇〇

青年期・成人期の自閉症支援の現状をマクロ的に見れば、①支援学校、支援学級に在籍する自閉症の子どもたちは確実に増えている、②普通級に在籍するいわゆる高機能自閉症の生徒も多数いるという実態がまずあります。大阪府では、ここ数年で新たな特別支援学校が6校できる予定ですが、それでも増大するニーズに追いつけるかどうか心配です。

自閉症の子どもたちは当然ながら学校を卒業していきます。では、成人期のサービス、卒業後の受け皿はどうなっているでしょう。③入所施設はもう作らないというのが国の方針。しかし、行動障害が激しいなどの理由で地域生活が困難な自閉症の人たちに、現場では多数直面しています。④彼らの多くが施設入所待機の状態、ショートステイやガイドヘルパーを利用しながら家族が面倒をみている。⑤成人期の高機能自閉症の人たちの中には、在宅・引きこもり状態が長く続き、こちらも家族が面倒をみている。⑥一方、程度の度合いはさまざまですが地域生活を送っている自閉症の成人たちは、通所の就労継続支援や生活介護事業を利用している。もしくは、⑦就労支援を受けて地域就労を目指している(あるいは就労している)。そして、⑧親が高齢になれば、ケアホームやグループホームを利用したり個別のサポートを受けたりして地域生活を維持していきたいが、そういうホームやサービスはすぐには見当たらない。このような状況だと思います。

実際に自閉症の人たちが増えているかどうかは別として、①②の先にある③～⑧の青年期・成人期の問題は、ゆっくりとしかし確実に増大し、地域や家族の限界値を超えた途端、急速に顕在化し、社会的にも対処不能になる事態が想定されます。これは年金問題や財政問題と同じ構図で、先送りをして問題は大きくなるばかりです。

自閉症の人たちをどのように地域社会に包摂していけばいいか。インクルージョンというテーマはそこにあるはずですが、日本では「障害のある子もいない子もみんな一緒に教室で過ごす」みたいな話になっていることが多いように思います。教室の中でみんなと一緒に過ごすかどうかを考えることも大事ですが、卒業してからの地域生活はどうなる? という疑問に、学校の先生をはじめ支援者や専門家たちはきちんと答えてくれません。

具体的な処方箋として、①～⑧のすべてにわたって「自閉症に特化した〇〇」を作っていくことだと筆者は思っています。たとえば、「自閉症に特化した医療機関」「自閉症に特化した支援学校」「自閉症に特化した通所施設」「自閉症に特化した就労支援」…と。新設するのが難しいなら、今ある資源の一部を自閉症に特化したものに転換していくことが求められます。ある調査では、その支援学校の生徒の60%以上が自閉症のお子さんだったそうです。そうであれば、先生の配置やクラス編成、カリキュラムの内容も、それ相応に自閉症に特化したものに変えていくことが求められます。

私たちは、自閉症の人たちがこんなに多く地域社会にいることに気づいていなかったのです。身近なところからかまいません。自閉症対応がきちんとできるように現場の意識も体制ややり方も切り替えていくことです。猶予の時間は限られています。 <自閉症eサービス代表 中山清司>



番外編

その1

振り返る道向かう道⑤ 通所施設から入所施設に

小林 邦子

最重度自閉症の息子俊文は47歳になった。世間の理解は得られなかった幼児期少年期。東やまたレジデンス入所という大きな幸運をいただいて16年。ようやく適切な支援指導をいただくようになり、現在は穏やかな日々を過ごしている。母親の私は高齢者の域に入って改めて振り返る過ぎゆきである。

近所の方からいただいた子供用自転車に俊文はすぐに乗れるようになってしまった。母の私は軽自動車で追う毎日であったが、ある日、自転車で前を走っていた俊文が突然農家と農家の境の狭い道に入ってしまった。すぐに先回りをして待ったが俊文の方が早く出たようだ。周辺を走りまわったが見失ってしまった。午後3時頃だった。警察に電話をするのは何回目だろうか。家で待機するようにと言われたが一体どこまで行ったのだろうか。胸に大きく名札を縫いつけているが、見つからないということは事件に巻き込まれたのだろうか。近隣の方達は手分けをして車で探してくださっていたが、夜10時過ぎようやく警察より保護の知らせが入った。俊文は人家のまったく無い厚木飛行場脇の道で、自転車を引いて1人で歩いていたという。車で通りがかった人が不審に思い、警察署に電話してくださったのだ。近所のYさんが丁度俊文探しをして戻られたところだったので、Yさんの車で大和警察署に引き取りに行った。警察署の椅子に疲れた表情で坐っていたが、相当空腹だったようで、車に乗せるとパンを夢中で食べていた。保護されるまで、歩いたり自転車を漕いだりしていたのだろう。運動靴の底がすりへって穴があいていた。もう騒動を起こしてはならない。自転車を隠したが、近所にはどこにも子供がいるので、あちこちに止めてある自転車に乗ってしまう。親として全神経をとがらせて過ごす日々となった。

自転車で俊文を見てくださる人はいないだろうか。小児療育相談センターで松阪先生に相談すると、池田さんという消防士の方が、善意銀行にボランティア登録されていて、先生が早速申し込んでくださった。週1度、非番の日には自転車で俊文と一緒にでかけ、公園などで遊ばせてくださって、本当に有難かった。公園で俊文を遊ばせる青年を見て近隣の方々も感心していた。「ボランティアを育てるという気持ちが大切よ」と田村さんに教えられ、それを心がけた。後に俊文が入所施設に入った時、田村さんが匡弘君のボランティアにと御願ひし、池田さんはボランティアを続けてくださった。やがて池田さんが結婚されると聞き、田村さんと二人でささやかなお祝いを持ってうかがった。幸せな家庭を築き上げそうなカップルでほほえましく思った。

学園では本当によく指導していただいたが、偏食に対するしつけは厳しく、野菜を一切口にしない俊文には無理矢理に野菜を口に押し込まれた。口から出すと叱られるため、迎えにゆくと開いたままの口の中にいつも野菜が詰め込まれ、車に乗ったとたんに吐き出すという毎日であった。次第に学園にゆくことを拒むようになり、毎朝、車に乗せるまでたいへんになってきた。家においてやりたいが母として自転車を追い回す元気がなかった。車が上大岡に向かう道路に向かったとたんに、運転している私に反抗の大声をあげながら殴りかかってくるようになった。俊文にとって学園での偏食のしつけは耐えられなかったのだろう。親に乱暴をするという行動はこの時から始まった。

夜は家で好きな本の車のグラフィアを見たり、ブロック遊びをしていたのだが、次第に家のなかでも多動になってきた。整理タンスに登ってしまい、さらに洋タンスの上に移り、天井に頭をつけながらの高さから飛び降りて遊ぶ。夜中に俊文がいないと思うとタンスの上に腰掛けていたりする。飛び降りるのも忍者のように音も立てず、私が寝ているすぐ脇に飛び降りる。私の頭の上に落ちないだろうかと気を張り詰める。頭を逆の位置にして寝ていると、それは駄目だと主張するように俊文は私を力ずくで引き戻す。世間ではしつけのできない親としか思わないだろう。このころ夫は入院中だったので、俊文が学園に居る間に夫の見舞いにゆく。昼夜を通して神経を張り詰めることで、疲労は極度に達し、すべてに限界を感じるようになった。

自転車に乗っての騒動を起こしたのは、昭和51年の末のことである。この日も自転車の俊文を車で追っていたが、一方通行の道の出口より自転車で入ってしまった。いつかは入ってしまうかと怖れていた道で、ここに入ると車は相当な周り道をしなければ追いつけない。運転を急いだが俊文の姿はない。家に戻ってみたが居ないので、警察に保護願いの電話をすると、すでに相鉄線の希望ヶ丘駅前の交番に保護されていた。5キロほど離れた希望ヶ丘駅近くのスーパーを知っているのだから、行ってみたのだろう。俊文は自転車で踏み切りを渡っていたが、何を思ったか方向を変えて線路の上を自転車で走り出した。そこに電車が来て急ブレーキをかけて止まった。俊文は自転車を放り出して線路脇に逃げて身を伏せたという。自分の身を守ることを知っているのだから、叱ればわかるだろうと警察官に怒鳴られていたらしい。俊文は泣きわめいているので如何にもならず、あした本署に電話をするようにと言われた。翌朝電話をすると「お母さんを叱ろうとしたが、やせこけて疲れた顔をして、とても叱れなかった。始末書を書いてもらうところだが、可哀想だから特別に許す」と言われ、俊文を施設に入れることを勧められた。



如何にこの窮状を抜け出せばよいのだろう。月1回の療育センターの相談日に、俊文の踏切で起こした事件のこと、夫が入院していること、私が神経を張り詰める毎日となったことなどを松阪先生に報告しながら、涙が溢れて止まらなくなった。この日は松阪先生と共に、小児精神科医師の先生と一緒に話を聞いてくださっていて、もう家庭で俊文をみるのは無理でしょうと言われた。松阪先生は施設を探してくださって、私立の施設が引き受けてくださることになったと連絡をいただいた。

いよいよ俊文を施設に入れる日が来て、入園の荷造りをして児童相談所に行った。有難いと悲しいという感情が入り交じり、気持ちの昂ぶりを抑えながら相談所に到着したのだが、施設が入所引き受けを断ってきたので今日は帰ってくださいと言われた。たいへんな子供は公立の施設でみるべきだという理由らしい。児童相談所で探すので、改めて電話をしますという。この時、自分の感情を処理しきれず声を上げて泣いてしまった。やはり私も病んでいたようだ。退園の手続きをしたひのき学園にお願いして、また通わせてもらった。2日ほどして県立ひばりが丘学園の指導員お2人が、夜に訪問してくださった。俊文を家庭で面接という。2日後受け入れ決定の連絡があった。

ひばりが丘学園に入所が叶って家庭の崩壊は免れた。学園は重度棟と一般棟の男子、女子に分かれていて、一般棟は長い廊下に各部屋が並び、1部屋に3、4人の園生が泊まる畳の部屋がある。小学校の学齢児は俊文を含めて2人のみで20歳までの園生がいる。保母さんたちの活発で明るい笑顔にほっとしながらも、小学5年生の俊文を置いて施設を後ろにするとときは胸が痛み、激しい自責の念が湧いた。家に過せないほど手におえなくしてしまったのは親の対応に誤りがあったとしか思えず、今更ながら後悔ばかりである。心は重く深い悲しみで放心状態の日々を送った。結局ここまで手におえなくしてしまって俊文にどう謝罪するのか。深い罪悪感で居ても立ってもいられないという心境の日々であった。夫は退院して勤めに復帰したが、九州や関西への日帰り出張が多く、羽田飛行場や、新横浜駅まで車で送迎した。俊文が在宅ならば出来ないことである。ひばりに入所によってわが家は救われたのだ、そう思う、その方法しかなかったと自分に言い聞かせた。この頃は短期入所という仕組みはなかったが、あったとしても在宅に戻せたかどうか今でも分からない。



小児療育相談センターに母親だけの年3回の面談が続いていて、松阪先生には事あるごとに助けていただいた。グループは田村、本田、小林の3名で面談は4階の部屋だったが、ある日、帰りの3階で出会った背の高い青年に田村さんが挨拶をしていた。自閉症者施設の開設に向けた運動に多大な協力をしてくださっている関水さんというお方だ。後に俊文が御世話になるお方とは思ってもいなかった。施設づくりをめざす運動が始まり、俊文が通園していた頃に、疲労困憊のわが身を励ましながら県や市への陳情や話合いに参加していた。俊文が入所施設に入って少し時間ができたので、活動に加わるつもりでいたが、つらく虚しさが先に立ち、会への欠席を重ねた。ひばりに入所できたが20歳までの施設なのでその後の見通しはまったくない。しかし自閉症専門の施設など、がんばっても無駄ではないか、夢の夢の話という気がした。

俊文がひばりに入所した年の4月、活動の中心となっている方達の話合いが小児療育相談センターであり、田村さんより声をかけられて参加した。この日の出席は富川夫妻、山岸、田村、山島、望月（節）、竹本（靖）、藤井さんという顔ぶれだったと記憶している。センター会議室の予約はいつも関水さんがとってくださるという。参加した方々は、それぞれ子供に向かう姿勢には確とした態度と見解を持たれていて、自分の無気力を思い知ったが、やはり心が萎えたままだった。「やまびこ会」という名称の発案は山岸さんだったと思う。「自閉症などは市民権も持っていない」と私が言うと、「市民権は私たちが得るものなのよ」と山島さんに優しく言われたことが忘れられない。山島さんとは療育センターですっと一緒にグループだった。その後、中学生だった息子さんとお嬢さんを遺して病に倒れられたのは大きな衝撃だった。

私は資金の積み立て実施のスタート時のみ参加し、その後は会の活動から離れてしまった。横浜やまびこの里設立が実現し、20年後にレジデンス入所が叶って一番恩を受けているのは俊文で、感謝の思いは複雑である。





番外編

その2

ハウスキーパーさんとの懇親会

東やまたレジデンス 木村 重之

以前、「マンやま」でご紹介した「東やまたレジデンスの母たち」こと、ハウスキーパーさん達との懇親会が先日行われました（私たちは普段、キーパーさんと呼んでいます）。

懇親会と言っても、飲み会ではなくファミレスで軽食やスイーツを食べながらの、とっても主婦な懇親会です。毎年、新人職員やベテラン職員とハウスキーパーさんが集い、楽しくおしゃべりをします。

ハウスキーパーさんは平日午後の3時間、レジデンスの清掃を下さっている方たちです。1日平均3名のハウスキーパーさんが分担して掃除して下さいます

ハウスキーパーさんはレジデンス開所時からいらっしゃる方が多く、17年もの間、利用者の生活を見守って下さっています。ですので、ある側面から言うと誰よりもレジデンスのことをよく知っています。

「あそこのキッチンの床はもうそろそろ替えたほうがいいわよ」

「あそこのお風呂のタイルがいくつか欠けてきた」

「あのトイレの小便器の臭気蓋はひびが入っているので替えてほしい」など・・・

どうして臭気蓋のヒビまで知っているのか尋ねてみると、「毎日、臭気蓋を外して内側まできれいに洗っているのだから知っている」という言葉が返ってきました。

レジデンスは建物の中に7つのユニットが入っており、それぞれがケアホームのような造りになっています。ほぼ毎日、1人のハウスキーパーさんが3時間かけてケアホーム2件分をてきぱきと掃除します。

外部の方がレジデンスの見学にいらっしゃる事が多いのですが、「建物は古いけれど床はピカピカですね、どうすればこんなに綺麗に保てるのですか？」とよく聞かれます。そんな時はここぞとばかり自慢のハウスキーパーさんの説明をします。

普段、利用者とハウスキーパーさんが会うことはありません、利用者が作業に出かけている時間帯に掃除してもらっているからです。でも、先日の懇親会でも利用者の話がポンポン出てきました。

「Bさんの部屋は最近とても整理整頓ができています」とか
「Cさんの部屋は紙ちぎりの跡がすくなくなったね」など・・・
ハウスキーパーさんの視点で利用者の生活を見守ってくれています。

「17年の間に、引っ越しで遠くなったけど続けている」
「たまに利用者さんに会ったり、職員と話をするのが楽しいから17年やってきた、
これからも出来る限り続けたい」
懇親会では、こんな言葉をもらってとても嬉しく思いました。

東やまたレジデンスにとってハウスキーパーさんは欠かせない大切な存在です。これ
は17年間ずっとそうでしたし、これからも変わることはありません。

普段、なかなか感謝の気持ちを伝えきれませんが、この場を借りて私たちの感謝の
気持ちを伝えたいと思います。

よこはま三歩



はじめまして。今年4月から東やまたレジデンスで働いている木立享
佑と申します。よろしくお願いします。

私は兵庫県出身で、5歳からは横浜の日吉で過ごしています。そんな
私が今回紹介するのは、日吉周辺のラーメン店です。

日吉周辺には慶応大学や日大高校等があり、学生で賑わっています。
それと関係しているかはわかりませんが、ラーメン店が多く競争が激し
い地域です。ラーメン店の多くは、家系というトンこつベースのこっ
り系のお店です。その中でも「武蔵家」と「らすた」というお店が人気
です。トンこつベースでこってり系の味ですが、とてもおいしいのでラ
ーメン好きの方はぜひ足を運んでみてください。

そのほかにも美味しいラーメン店がありますので、食べ歩きしてみ
てもいいかもしれません。

また、ラーメン店ではありませんがアルピノというイタリアンのお店
はランチの時間帯は大変混み合っていて、人気のお店です。こちらもお
勧めなので興味のある方は、行ってみてください。

東やまたレジデンス 木立 享佑



番外編

その3

養護学校実習

～支援の優先順位をチームで考える～

東やまたレジデンス 吉川 悠太郎

◆はじめに

東やまたレジデンス（以下、レジデンス）では、7月8日から5日間、養護学校実習生の受け入れを行いました。私は今回の実習を通じて、通所だけを目標にするのではなく、通所先の活動を明確にすることで、結果的に通所を確保することなど支援目標に優先順位をつけたことで、実習が予想以上に順調に終わったことを実感しました。

今回は、実習開始までに整理したことと、レジデンスで設定した目標やその実現のために準備した環境整備などについて報告します。

◆実習生のプロフィール

Dさんは高等部3年生、療育手帳A1の方です。養護学校からの情報では、小さい子どもの高い声を苦手とし、その声が原因で、調子を崩すことが多いそうです。一度拒否した場所には、再度行く事が難しく、拒否する時にはその場から力ずくで逃げようとするとのことでした。また初めての場所にも強い拒否があります。作業に関しては、学校では1回2～5分で終了出来る作業を行い、マッチングやプットインなどの作業を行える反面、修正されることに弱く、他害行為に至ることもあるそうです。初めての場所に拒否が強いこともあり、はたして実習に通えるかも含めて課題のある方でした。

◆養護学校での個別支援

今回、私は初めて養護学校を見学しました。養護学校には自閉症だけでなく様々な障害のある生徒が所属し、集団行動を中心とした授業が行われています。そうした中で、体育の授業中Dさんは集団から離れた場所で歩いていました。

学校でDさんは、体育の授業に限らず、個別に配慮された学校生活を過ごしていました。Dさんが理解しやすいように示されたスケジュールの提示があり、授業ではワークシステムも使用していました。さらにDさんは聴覚過敏が強いため、音を遮断できる環境として、空き教室で先生とマンツーマンで自立課題に取り組んでいました。自立課題もDさんが飽きないように興味のあるものを取り入れるなど、様々な配慮がされていました。

先生の話では、このように環境を設定したことで、Dさんは以前よりも学校生活を安定して過ごせるようになったそうです。

◆支援目標の設定 ～養護学校とレジデンスの違い～

養護学校とレジデンスと比較した際に違う部分は、養護学校には様々な障害を持った生徒が在籍しているがレジデンスは自閉症に特化していることや、年齢が違うことなどもありますが、一番の違いは、「コミュニケーションを教える」等のボトムアップアプローチ（積み上げる。延ばす。）が中心の養護学校と、トップダウンアプローチ（限られた力の上で生活を作る。）が中心のレジデンスの違いかもしれません。

◆レジデンスでの目標設定は「自立した活動を目指す」

レジデンスの環境で出来る事は何かを考えました。まず、チームとして支援できる力を持っている事が最大の強みではないかと思います。その強みを生かす意味からも、チーム全体で今回の実習の方向性や目標を明確にすることから始めました。実習の準備を行う前のチームミーティングで、「養護学校実習は、5日間問題なく来所する事を目的とするのではなく、作業を行い評価する中で結果的に、レジデンスに通えることを目的とした方がよい。」との話がありました。私自身、実習生が新しい場に弱いことなどから、5日間問題なく来所することを目標として考えていましたが、この話があったから、目標の第1は、「作業で自立した活動を目指す」ということが明確になりました。

具体的な目標設定（以下の目標を設定しました。）

- ① 5日間拒否無く来所する
- ② 作業を行う事を目的に来所する
- ③ 作業と休憩時間のメリハリを付ける
- ④ 自立して活動を行う。

上記の目標に沿って、作業を行う所では、メリハリを付けるためにも、作業に集中できる環境にしようと取り組んでいきました。



◆具体的な環境の設定を考える

次はDさんに合わせた環境設定です。環境設定は、面談での聞き取りの内容や、養護学校見学時の様子を基に組み立てました。そして、作業場面では学校で使用していたワークシステムを基に環境設定を行いました。

学校での提示方法は、「写真①」のように5枚の写真を並べその写真の作業を行い、1つの作業が終了したら「写真②」の用紙に丸を付け、5回作業を行ったら強化子を得る流れです。この流れを基本に、作業を1人で始め、1人で完結できるように組み立てました。



写真①



写真②



写真③



写真④

それが、「写真③」や「写真④」です。「写真③」にある、色の着いたカードを取り、「写真④」にある白い作業ボックスの前に示されている色のカードへマッチングさせ作業を行います。最後にある、サッカーボールのカードはトランジションカードで、スケジュールへ行き、次の活動を確認し、スケジュールに提示された活動へ移行するという流れです。

1日目に流れを教え、時々ミスがあったものの、2日目からは自立して行えるようになりました。



◆5日間の実習を終えて

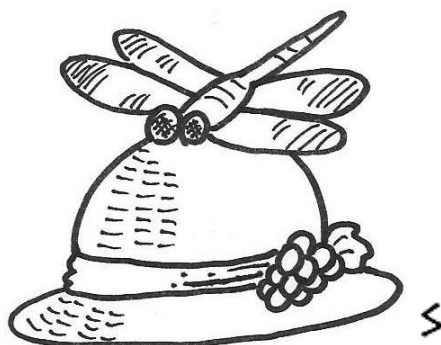
実習中の5日間、作業や休憩、昼食等ほとんどの活動について、人を頼りにするのではなく、スケジュールやワークシステムを頼りに自立して行っていました。

それ以上の成果は最終日でした。Dさんの親御さんが見学に見えた時に、帰れると思い、それまで無かった離席がありました。しかし、スケジュールに帰宅の提示がされたことで、帰れる保証がされていること、トランジションカードを渡して次に何を行うかを伝えることで、1度は帰ろうとしたものの、作業を行うことが出来ました。いままでの様子では考えられないと親御さんも喜んでくださいましたが、人ではなくスケジュールを頼りにし、行動することができている証だと思います。

◆養護学校実習は、準備が9割、本番1割

今回、約1か月の準備期間を経て、養護学校実習の支援を組み立て、実行に至りましたが、支援の組み立てを本格的に始める前に、ミーティングで「5日間問題なく来所する事を目的とするのではなく、作業を行い評価することを目的とする」と目的を明確にした事が今回の実習が成功裏に終わった理由として大きかったと思います。また、自立的に動くことを目標にしたことでDさんの混乱を減らしました。もし、目的を明確にしなければ、5日間の実習は、本人が毎日来てくれることへの対応で終始して混乱していたかも知れません。この目的があったからこそ、1日1日チャレンジし、Dさんはステップアップ出来たのだと思います。

自閉症の障害特性にあった目標設定をチーム全体で行い、ミーティングや支援の組み立てやシミュレーションや準備を整えることで、Dさんは自立して作業を行うことが出来ました。準備が9割、本番1割という言葉聞いたことがあります、この言葉を理解できた経験でもありました。



自閉症児の親も

一日にしてならず。

★momoeさん紹介★

知的障害のある人の地域生活支援をする特定非営利活動法人の理事です。首都圏通勤圏にある某市に夫と夫の母親(要支援 2)、某病院機構事務方に就職した長男と生活介護事業所(通所)5年目・23歳で知的障害と自閉症がある(療育手帳で最重度、障害程度区分 6)の次男と暮らしています。

ペンネームは
momoe



いよいよ次のステップへ その1 の巻

2月28日 主に利用している私鉄の特例子会社が開いていたベーカリーが、半年前に採算が取れないということで閉鎖した(その私鉄のバス部門で夫が働いている友人が「採算が取れないとあそこはすぐ切るんだ!!!」と怒っていた)(そこで働いていた方たちはクリーニング部門や清掃部門で引き続き雇用されているそうで、それはよかったのだが)。頻繁に新しい種類を出さないと飽きられてしまうということでいろいろ努力していたし、応援したい気持ちから特急が停まらないその駅にわざわざ行ったりしたのに・・・(涙)。この日その後に居抜きで入ったベーカリーのパンを初めて買う。まあ、ふつー。

3月8日 1月の短期入所の日程の折り合いがつかず、最終週になったため2月の頭にずれ込み、2月の利用日数が5日になった。入所施設の短期利用担当の方が市に日数変更を申請してくれたところ、「2月のみの受給者証を作るので、3月になったらまた3日に戻す」と言われたとのこと。げげげ。そしてこの日、3日に戻った受給者証が届く。

3月11～12日 これも恒例になった春スキーにアルバイトさんに行く。待ち合わせ場所の東京駅に向かうべく次男と2人で山手線に乗っていたら、上野駅で人身事故だとのことで、あとひと駅というところで止まってしまう。京浜東北線に乗り換え。12日に迎えに行くとゲラ男で猿のような踊りをしながら帰ってくる・・・



3月13日 とある社会福祉法人の評議員会でTドクターが支援している患者さん（女性）がご家族でベーカリーをされているそうで、その丸パンを持ってきてくださる。4月からこの法人でベーカリーを始めることになっていてそんなこんなで「パンについて」いるのです……。この日はほかにもパン焼き指導をしてくれている方の試作品やベーカリーのスタッフになる利用者さんたちが作ったシチューなどをいただく。建物や備品はもうできており、新卒者、ほかの施設から移動してくる利用者さんは週に何回か指導を受けながら試作品づくりも始めている。

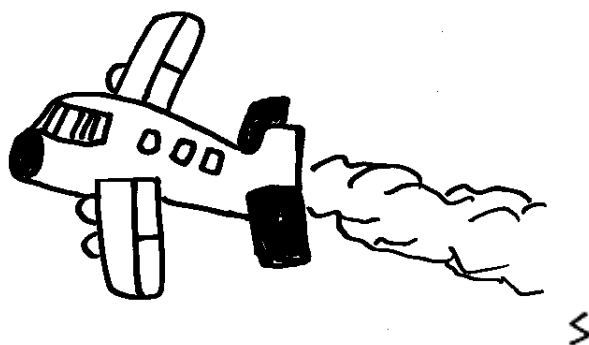
3月17日 13日にオープンした主に観光客を呼ぶための「地産地消ショップ」に行く。海産物のコーナーが多い。レストランもあり、バスの駐車スペースもあり、楽しめる場所ではある（が地元人はもっと安いところを知っているのでまあ話のタネに行くっていうところかなあ……。観光目的としては、緑地の花畑と近隣の歴史地区とセットの昼食お土産買い物場所というところか）。

3月18日 職員研修の代休のこの日、作業所連絡会から招待として希望者にいただいたサーカスのチケットを持って次男と出かける。30分前につけばいいだろうとタカをくくっていったら入場待ちの長い列。結局予定していた回には入れず、午後の回の整理券をもらって時間つぶしをすることになる。見ながら食べようと思って買った牛丼屋の弁当を持って横浜みなとみらい地区を散歩。大栈橋の上では野外ウェディング撮影をしている。いろんなポーズをつけて、強風が吹く中での撮影。花粉対策で怪しい姿の次男と私は風を避けながら幸せそうな2人を見ていた……。牛丼弁当は国の合同庁舎のロビーで食べる。弁当を買っていなかったらともしびショップレストランの「はしご」もできたんだけどね。さてサーカス会場に戻ってようやくテントのなかへ。バイクのパフォーマンスがあるということで耳栓を持っていったら次男も嫌がることなく装着。次男の視線は照明を追っていることが多かったが、視界の片隅には演技もいれていたらしく、帰りの電車で、「今日何を見た？」と聞くと指で「らいおん」「ぞう」「しまうま」「きりん」などと書いた。

3月24日 長男の就職祝いがかねてから「何かあった時に行こうと決めていた」ステーキ店へ。美味しいお肉とデザートを4人でシェアしながら食べた後、主に近隣の人へのお披露目として開いた新しい生活介護施設のベーカリー（3月13日の文参照）オープンデーに行く。自治会の方、社協の方、民生委員さんなどが来てくれている。設備の説明やフルオープンに向けての日程などを聞き、試作品のパンをたくさんいただいて帰る。

4月9日 これまで次男の鼻炎の症状は1月下旬から出ていたのだが、だんだん「花粉症」くさくなってきたようで、この日あたりから鼻水と鼻づまりによる口呼吸での咳をしだす。そこで、昨年からかかっている耳鼻科へ。研修医らしい女性がいるせいか、いつもは単語だけしか発しない医師が丁寧に説明（笑）。アレルギー性鼻炎といういつもの診断でいつもの薬。薬局に行くと「ジェネリックが出ましたがどうします？」と聞かれ、まよわずそれに。

4月17日 市の防犯一斉メールが流れ、高校生の知的障害のある方が行方不明とのこと。隣の地区に買い物に行くと、掲示板すべてに写真入りでその方の詳細が貼ってある。やはり自閉症のある、わたしの知っている方だった。私たちも知り合いにはメールで知らせたり、外出先では気をつけて探すようにしていたところ、2日後に隣の市の市街地からすこし離れた山のふもとで無事に見つかった。落ち着いたところで思い出すと、隣の地区には掲示板すべてに協力依頼のお知らせが貼ってあったのに、私の住む地区には一枚も貼っていなかった。がっかりした、と同時にやはり私（たち）の「知的障害のある人がここにもいて、皆さんも心に留めておいてください」という活動が不足しているんだろうな、と反省もした。小・中と地域の学校に行って同学年の人たちには大分顔が売れていたのだが、彼らも23歳、大学を出て、家も離れ、また離れなくても日中は地元にいるわけではないだろう。本当の近隣、また次男と歳の近い人以外の人たちにも知ってもらおう取り組みをする必要が出てきたのだ。





本棚から

「西の魔女が死んだ日」 梨木 香歩 著 新潮文庫

「ミッケ！」 写真：ウォルター・ウィック、文：ジーン・マルソーロ 小学館

毎日50分の通勤電車内。久しぶりに本を読もうと思いました。薄くて読みやすそうな本を探していたところ、手にした本が、「西の魔女が・・・」でした。

中学生の「まい」は、まっすぐに生きようとするあまり、クラスでは浮いた存在になり、学校に行かなくなります。そして「西の魔女」こと「まい」の大好きな祖母の家でしばらく過ごすことになりました。そこから魔女修業が始まります。

自然との触れ合い、リズムがとれた毎日の生活の繰り返しから、「まい」は心も体も徐々に元気になっていきます。

魔女修業は『その人の素質を伸ばすこと』『自分で考え自分で決めること』を指していますが、私はこの本を読みながら『自分で自分を引き受けること』も含まれているように感じました。お話しの中で、「西の魔女」は「まい」に対して、「それはちがう」とか「でもね」などの言葉をほとんど返していません。自分自身で考えて決める「まい」をずっと見守り続けています。

印象に残るこんな言葉もありました。『サボテンは水の中にはえる必用はない

し、蓮の花は空中では咲かない』・・・これは、どんな意味なのでしょう。

魔女修業も進み、自分の足で歩き始めた「まい」。しかし、「西の魔女」との別れがやってきます。しこりを残したまま去った自分を責める「まい」に宛てて、最後に残された「西の魔女」からのメッセージがとても粹で、清々しいです。

この本を通じて、凜とした生き方や人の温かさ、自然とのふれあいや暮らし方、人が成長していく上での大切な「何か」を感じることができました。

ご紹介したい2冊目は、「ミッケ！」という「かくれんぼ絵本」です。小学生の間で話題になり、すでにシリーズで発売されています。「ウォーリーをさがせ」とは違い、リズムのある楽しい「なぞなぞ」を解きながら探していきます。使われている写真もCGではなく、作者が実際におもちゃを集めてセットを作り撮影したというのですから、びっくりです！「こんなところにあった！」「こういう使い方があるのか～」「こうみるのか～」など・・・新たな発見があり、硬～くなった頭をほぐしたい人におすすめです。

<藤ノ木 法子>

△▼横浜やまびこの里後援会▼△

横浜市内で自閉症という障害を持つ人たちが地域で生活するためのサービスを、一つずつ作り出していく活動をしている『社会福祉法人横浜やまびこの里』の活動のバックアップを目的としています。

入会された方には「マンスリーやまた」「後援会報」をお届けします(郵送)

会員種別	個人会員	法人会員
会費	1口 3,000円/年	1口 10,000円/年
入会時期 (定時入会)	7月または1月	
会費納入方法	(ア)7月入会者 7月～12月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の7月に納入し、以後毎年7月となります。 (イ)1月入会者 1月～6月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の1月に納入し、以後毎年1月となります。	
振込口座 (郵便振替)	横浜やまびこの里後援会 <口座番号> 00240-3-76163	

★後援会のお申し込み・お問い合わせ★

横浜やまびこの里 後援会事務局

TEL045(591)2728

～編集後記～

先日、いわきの知人に無理を言い、3.11の被災地に連れて行って頂いた。国道6号線を北上し、常磐線の富岡駅まで。ここが、現在、自由に立ち入れる北限とのことだった。「見るも無惨」とはこのことか。工事車両や日帰り帰宅が許されている人たちの車は行きかうものの、半壊状態の家々が立ち並ぶ状態は、まさに「ゴーストタウン」で心が痛んだ。全壊もひどいが、半壊はそれ以上に悲惨に感じた。3年が過ぎた。原発は重要な問題であるが、その陰でまだまだ、人に知られず不自由な状況を強いられている人たちが多くいることを改めて痛感した。できることで良いから何かしなくては……。 (小林)

表紙写真 ペンネーム：国鉄福私鉄道（こくてつふくしてつどう）
 編集 社会福祉法人横浜やまびこの里（編集責任者 小林信篤）
 横浜市都筑区東山田町270番地
 TEL.045-591-2728/FAX.045-591-2768
 法人ホームページ <http://www.yamabikonosato.jp/>

印刷 ワークステーション 横浜市神奈川区西神奈川1-14-6-1F TEL.045-316-5710
 購読料1部 15円（税込み）